

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

P2 特集

地域の福祉につなげる 「居場所」の役割

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 私の物語
孤立しがちな介護者の支えになりたい
山崎 敬一さん(養父市)

P8 みんなでつくるひょうごの福祉
“そば”を活かして地域を活性化
「そばカフェ生田村」

P9 福祉トピックス
地域福祉ホットニュース

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション

2017

7

No.797



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

加東市

兵庫県立播磨中央公園



地域の福祉につなげる「居場所」の役割

最近、福祉の現場で「居場所」が注目されている。従来、「居場所」といえば自宅や職場・学校などが挙げられたが、それら以外にも「第三の居場所」として商店街の空き店舗を活用したフリースペースやプレーパークのような場も広がっている。

自宅が一番落ち着く、お気に入りの喫茶店がいい、会社が居場所だ、など人それぞれで捉え方はさまざま。

今回の特集では、「社会的孤立」や「地域共生社会の実現」が社会的な課題となる中、地域福祉の視点から「居場所」の広がりや今日的な役割について考えたい。



最近の若者の「居場所」

内閣府の調査では、若者の6割以上がインターネット空間が自分の居場所と感じているというショッキングな数字が出ている。

これは、平成29年6月に内閣府が発行した「平成29年版子供若者白書」の巻頭特集「若者にとっての人のつながり」の中に出てくる数字だ。「自分の部屋(89.0%)」「家庭(79.9%)」に続いて、「インターネット」を居場所と感じる若者は62.1%にのぼり、「学校」「職場」「地域」を上回る結果となった。

このように居場所は、自宅の他、学校、職場、地域が一般的であったが、それ以外にも人の捉え方によってさまざまに広がっている現状がある。

人が「居場所」と感じる場所は、買い物をするお店の道端、玄関先での「井戸端会議」、近所の家でのお茶飲み、公園の花壇づくり、ラジオ体操などさまざま。

その人がそこに居心地いいと

思える場であり、人それぞれにいろんな「居場所」があって良い。

なぜ、今「居場所」なのか

福祉分野における居場所は、生きづらさを抱えた障害者の地域生活支援から始まったといわれている。中でも、共同作業所は障害者の就労の場としての役割に加えて、障害者が家から出て社会とつながることも重視された。

つまり、居場所は本人の役割があることや、仲間ができてお互いの存在を認め合うことで元気になる場でもある。福祉分野における居場所を考える場合、見守りや支え合いにつながる場づくりの視点も重要だ。

高齢者の当事者支援の観点では、「一人暮らし高齢者の集い」などの地域での生活支援や課題共有の場としての取り組みが、社協を中心に行われてきた。平成7年には全社協が「ふれあいいきいきサロン」(サロン活動)を提唱し、全国に広がる契機となった。

このサロン活動は、高齢者を中心とした地域での居場所づくりの取り組みとして、地域住民が主体となって運営し、小地域福祉活動などの福祉のまちづくり活動と運動して各地域に広がった。

また、障害や子育てなど同じ悩みを抱える当事者同士が互いに集い、仲間づくりを行うセルフヘルプ活動不登校やひきこもりの若者が過ごせる居場所づくりや「子ども食堂」の取り組みなども広がりをみせている。

近年では、分野を超えて「地域共生ケア」という視点で実施するところも増えている。高齢者だけでなく障害者や子どもなども受け入れ、地域に暮らす住民誰もが、共に生きる地域の場づくりの取り組みとして注目されている。

「社会的孤立」や「地域共生社会の実現」が社会的な課題となる中、地域における居場所は、人と人とのつながりを生み出し、お互いの存在を認め合い、絆を深めることで支え合いの地域づくりにつながっていく。

居場所の多様な「カタチ」

地域の生活・福祉課題に応じた居場所づくりが進められる中、さまざまな居場所の「カタチ」が生まれている(図1)。

例えば、体操などのプログラムが目的で参加する人もいれば、自由におしゃべりを中心に仲を深めることを目的とした場もあれば、「コミュニティカフェ」といった喫茶店のように気軽に過ごすことのできる場もある。対象者、場所、運営の方法など居場所の目的によって工夫がなされ、さまざまな「カタチ」がこれまでに生まれてきた。

地域の居場所は校区単位に一つといった限定的・定型的なものではなく、さまざまな居場所が、さまざまな「カタチ」で地域の中にあることが望まれる。

事例1

宝塚発！住民の自由な発想で広がる居場所づくり

「このまちが好き、近くに住んでいる人を支えたい」という住民の思いから、宝塚市のサロン活動は進められている。現在では市内151カ所に広がり、その約半数が週1回以上開催される。

宝塚市の小地域福祉活動は、まちづくり協議会や自治会などの地縁組織と、ボランティアグループとの双方が得意なところを生かして進めるのが特徴だ。住民の思いや自発的な活動を後押しする社協の支援策もあり、自宅開放型のサロンや、居場所としての役割を超えて見守りや支え合い活動に発展するなど、住民の自由な発想による主体的かつ多様な形態のサロンが立ち上がっている。

「ミニデイサロン芽びき」では、UR住宅の集会室で毎週金曜日の11〜16時にサロンを開催。赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年齢層の参加



赤ちゃんを囲んで参加者の会話を弾む

があり、毎回工夫を凝らしたプログラムに参加者の笑い声もにぎやかに響く。サロン活動を続ける中で、日頃からお互いを気に掛ける関係性も生まれてきた。現在では、自治会と一緒に地域の見守り・支え合いの意識を広めていくための話し合いや、啓発チラシを自治会で回覧するなど、サロンから始まった取り組みが新たな展開を見せている。

「芽びき」が、サロン内だけでなく自治会エリアまで見守りの意識を広げ始めています。いつも大切にされている「一人ひとりに向き合うこと」がこのような地域づくりにつながっていくと学んでいます」と社協職員で生活支援コーディネーターの早瀬さんは、日々学びを得ている。



民生委員・児童委員や福祉事業者ら幅広い関係者が参加した

コラム
多様な居場所を
みんなで共有

明石市の望海地区在宅サービスゾーン協議会では、「早朝居場所サミット」を開催。サロンだけでなく、ラジオ体操や屋外での将棋など自然発生的な集いも含め多様な居場所が紹介され、地域住民の孤立防止や介護予防に向けた協議が進められた。「男たちの浜の居場所」と題して毎朝海岸に居合わせた男性が釣りをしながら交流している例もあった。地域に根差した居場所づくりが進められている。

高齢者の日中の通いの場としては、介護保険サービスのデイサービスセンターが一般的だが、サービスを利用することで、地域との関係性が低下してしまうといった課題も指摘されている。自宅から離れたデイサービスセンターに送迎されることで、サービスや専門的ケアは受けられても、地域住民との関係性や地域とのつながりが希薄になってしまう傾向にあるといつのだ。

一方で、住民が主体となり運営されるサロン活動は、地域とのつながりだけでなく、さまざまな立場の人がお互いの存在を認め合い、本人の役割の創出につながるなど、フォーマルなサービスではつくれない関係性を生み出している。県内においても、子ども食堂、ひきこもりがちな人の集いの場など、新たな居場所づくりが進められており、サロンの実施地域も年々増加している(図2)。

地域住民がつくる
「居場所」の意義

事例2
篠山発一不登校やひきこもりを
経験した若者の新たな居場所

篠山市社協が、丹南健康福祉センター内で運営する「喫茶ふれあい」では、市内で不登校やひきこもりを経験した若者を支援するNPO法人「結」と連携し、週2回、調理、配膳や接客業務に、ひきこもりを経験した若者が従事している。働き始めて8カ月の若者は、「まだまだ接客は緊張するけれど、今まで長く続けられなかった仕事を今も続けられていることが自信につながっています」と語る。

また、日中に子どもたちが一人で過ごすことが多くなる夏休みと冬休みの期間中、「ささっこ食堂」という子ども食堂を始めた。子どもへの参加にあたって、送迎付きにするなどの試みも行っている。「ささっこ食堂」では、学習支援や食事の調理に高校生や大学生などのボランティアを公募したところ17名も集まった。



「ささっこ食堂」では子ども自身が企画したレクリエーションを楽しんだ

ひきこもりや不登校などの課題は、都市部に限らず潜在的な課題として存在しており、就労支援や子どもの居場所については、社会資源の乏しい地域の方が課題となっていることもある。

社協職員の松本さんは、「学校との情報交換の中で、子ども食堂が必要な地域の情報も出ている。今後はこの取り組みの理解者や支援者を増やし、他の地域にも広げていきたい」と語る。

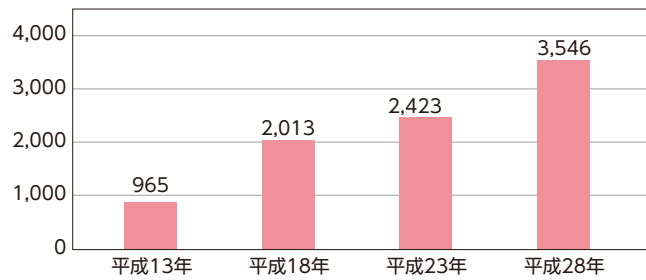
事例から見える
地域づくりの知恵

さまざまな居場所の「カタチ」と事例を紹介したが、これまでのサロン活動は、地域の集会所等を確保して、プログラムを組んで参加を呼び掛けるもの一般的な。

これからは、サロン活動のように、特定の場所で、特定の時間だけ開設される場だけではなく、自然に人が集まり交流している「居場所」にも着目していくことが求められる。その輪が広がっていくことが、住民同士の見守りや支え合い活動にもつながっていくからだ。そのための関係性を地図上にマッピングして見える「カタチ」にした取り組みも小地域福祉活動の一環として広がっている。

国では、「地域共生社会」の実現を打ち出している。人と人をつなぎ、「コミュニティ」形成につながる居場所づくりは、地域共生社会の礎となるものといえる。

■図2 ふれあいいきいきサロンの実施箇所数の推移(単位:カ所)



出典:「ひょうごの地域福祉の現況(平成28年度版)」

また、介護保険制度の「新しい総合事業」では、住民主体による「通いの場」を進めていく枠組みも生まれ、住民同士の助け合いや地域づくりを一緒に進める方向にシフトしている。

高齢者が元気なうちから地域のサロン活動や集いの場に参加することも重要だ。多様な居場所を用意しておくことで、支援が必

要な状態になっても、地域とのつながりを持ちながら暮らしていけるようになる。

自宅や職場、学校等に居場所がある人とならない人では、生活満足度に違いが出ているという調査結果もある。また、自宅や職場、学校以外にも冒頭のインターネット空間にバーチャルな居場所を感じる若者たちが増えている。

地域に暮らすさまざまな人たちが、居場所を通じて相互に関わり合いながら暮らすことで、社会的孤立を回避することができるのではないだろうか。

私たちにとって「居場所」は、社会生活の基礎であり、幸せを実感できる場である。そして、「居場所」は、自分らしさを発揮したり、本来の自分を取り戻すことができる場でもある。

地域の「居場所」は、地域の人々が自らつくることで本来の役割が発揮される。みんなの創意工夫で、支え合いの地域づくりを進めていきたい。



このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

孤立しがちな介護者の 支えになりたい

やまさき けいいち
山崎 敬一さん (養父市)

Personal History

55歳 妻が認知症を発症
58歳 小学校教諭を退職・介護に専念
63歳 養父市で「ここあん」スタート



みんな違って みんないい

妻が55歳で認知症に

私の妻は、55歳でレビー小体型認知症を発症しました。当時は、妻の記憶障害、幻覚などへの接し方が分からず、精神的に追い詰められてしまっていました。約2年近く、仕事と介護の両立生活を続け、その後、妻の病状の悪化をきっかけに、長年続けた小学校教諭を退職しました。学級担任だったので、歯がゆい思いをするともに、自分自身を責める苦しい日々でした。

「但馬初
認知症カフェ「ここあん」」

介護者同士のつながりがほしいと、月1回、神戸市内の「認知症の人と家族の会」の集いに参加していました。養父市でも介護の悩みや苦労を共有できる場をつくれなにかという思いが次第に募り、養父市社協に相談し、平成25年10月に但馬初の「認知症カフェここあん」(※)がオープンするに至りました。月1回のカフェ時にはボランティアがお茶出しなどをサポートしてくれるので、私もご本人やご家族の皆さんとの交流を楽しん



思いを共有することが明日からの介護にも活きる

※活動内容は、本紙761号(平成26年7月)に掲載

でいます。また、新しくカフェが立ち上がる際には、介護者の思いやカフェ運営の工夫を伝えるといったお手伝いをしています。いまや、但馬地域ではカフェが13カ所にも広がりました。音楽を楽しむカフェや、専門職へ相談できるカフェなどそれぞれの特徴があり、参加者が好みや日時を選んで立ち寄りやすくなってきました。

「試行錯誤を繰り返して、今の自分がある」

妻が認知症を発症してから、試行錯誤の繰り返しでした。今思い返すと、苦しみは何も生み出さないうわけがなく、自分の生き方を考え、問い直す良い機会だと思えます。介護をしているときのもどかさ、渦中にいるとずっと続きそうに思いますが、長い人生で見るとほんの一時。現在、妻は寝たきりで、会話もできませんが、日々小さな表情の変化に喜びを感じています。

「支え合い社会へのメッセージ」

妻の介護をきっかけに素敵な出会いもたくさんありました。教え子の親と「ここあん」で再会し、昔話に花が咲いたり、自分の介護に自信がない介護者がカフェで元気になる様子を目にしたことでもあります。いま認知症の介護をしている方も、一人で抱え込んで苦しい思いをしてほしくありません。孤独な気持ちを忘れることのできる場を大切にしていきたいと思えます。



「ストップ・ザ・無縁社会」
広がれ! 全県キャンペーン
<http://stop-muen.jp>

参加
無料

「尾木ママ」の愛称で親しまれ、多数の情報・バラエティ・教養番組でも活躍中
尾木 直樹氏が「無縁社会」を語る!!

子どもの貧困や社会的孤立が課題となる中、「本当の豊かさ」や「地域共生社会の実現」がテーマとなっています。そこで、みんなで「支え合い社会」を考える場として県民フォーラムを開催します。

- 日時** 平成29年8月29日(火) 13:00~16:30
- 会場** 神戸芸術センター 芸術劇場
- 対象** キャンペーンの趣旨に賛同する方 **定員** 800人
- 内容**
 - パネルディスカッション
「“ほっとかへん”を合言葉に、できること」
 - 記念講演「地域でつながり、支え合う」
講師:尾木 直樹氏(教育評論家)



コミュニティカフェ紹介

自治会主催のコミュニティカフェ「いっぷく邸」(伊丹市)

伊丹市の寺本東自治会は、昨年5月、誰でも気軽に立ち寄り交流できる地域の居場所として「いっぷく邸」をスタート。集会所で、毎月2回、第2・第4火曜日の10時から12時までオープンし、1年が経過した現在では毎回、高齢者ら約30名が訪れ会話を楽しむ。コーヒー1杯50円(お菓子付き)。

「私、一人暮らしなの。今日が初めての参加で朝から緊張していたのよ。普段、会話することも少ないから、みんなと自然に話ができてうれしかった。次も楽しみだわ」(70代女性)

「30年以上もすぐ近くに住んでいる男性と、初めて話をした。すると、お互いの趣味が囲碁・将棋だと分かり、すぐに打ち解けた。日常でも声を掛けやすくなるね」(70代男性)

このように、「いっぷく邸」は住民同士の出会いとつながりづくりの場になることはもちろんのこと、「運営する住民も月1回はボランティアの世話役で、もう1回は参加者になるなど、自然とみんなが役割を持って

る」、「顔を見なかったり、体調が気になる方には訪問して声を掛ける」など、住民による主体的な見守り・支え合いの輪が広がる機会にもなっている。

今後について、自治会長の神田氏は「今の月2回のペースがちょうど良い。参加者も忘れにくいし、活動者も負担が少ない。地域の支え合い活動だから、卒にはめずに末永く続けていきたい」と笑顔で締めくくった。



「コミュニティカフェ開設応援事業」の助成金を活用し、コーヒーメーカーやカップ、電子レンジなどの備品を購入しました

タイムリーな
情報をお届け

福祉トピックス

福祉の理解を促す高校生向け独自教材を開発

兵庫県は、高校生が親の介護、認知症、高齢期の衣食住など、誰もが直面する人生の問題について学び、高齢者とのつながりや介護の仕事など今の生活や将来を考える契機となる教材(ワークシート)を開発した。県教育委員会や高校教諭、介護事業者の代表らと協議を重ね、今年3月に取りまとめた。

このワークシートは、高齢者のライフイベントを聞き取り追体験するものや、介護職員へのインタビュー映像から高齢者を取り巻く環境を学ぶものなど、18項目で構成される。学習時間は、高校の家庭科の授業を活用。高校生は、ワークシートへの記入を通じて福祉への関心を高め、高齢者の心身の理解を深めるとともに、その家族や生活を支える専門職の現状を知り、自分なりの考えをまとめる。

今後は、いくつかの学校でワークシートを使用したモデル

授業を行い、教育委員会や高校の教員らによる検討会で検証を進め、県立高校の授業での活用を目指していく。

<ワークシートのテーマ>

1. 高齢化の現状
2. ひょうごの高齢化
3. 高齢者を知る
4. 高齢者がいきいきと暮らすために
5. 人生の先輩にインタビュー
6. 社会保障制度
7. 認知症
8. 元気に長生き
9. 親を介護する
10. 老老介護・認知介護
11. 介護離職
12. 介護保険制度
13. 介護サービスの種類
14. ケアマネジャーになってみよう
15. 地域包括ケアシステムと地域の介護施設
16. 介護の仕事とは
17. 介護の仕事ってスゴイ!
18. 将来の介護を考える



創意工夫が凝らされた
ワークシート

地域福祉ホットニュース

県内の新しい取り組みや
イチオシ情報を紹介します。



明石市

「ほっとかへんネット・AKASHI」が設立!

5月23日、明石市内の社会福祉法人(29法人)が参画する「ほっとかへんネット・AKASHI(明石市社会福祉法人連絡協議会)」が設立された。

設立総会では、会長に選任された小松達也氏(明石恵泉福祉会)より、「法人同士が力を結集し、地域の安心・安全を与える存在を目指したい」と力強いメッセージが発信された。今後は、各法人が持つ資源を持ち寄り、地域のニーズ把握を行った上で、設備の活用や相談窓口機能の設置、災害時の職員派遣などの公益的な活動を検討する。



神戸市

薬物依存者の家族会が発足!

薬物依存者の回復過程に寄り添い、支援を行う民間施設「神戸ダルクビレッジ」(神戸市中央区)は、今年4月に「家族会」を立ち上げた。

依存者が薬物を脱却し、回復する過程において、家族の協力は欠かせない。家族会では、家族が互いに語り合う「ミーティング」というプログラムを通じて、依存者との関わりの中で抱える悩みやストレスを吐き出し共有する。

家族会は、毎月第4日曜日の13時~16時に開催。家族のほか、交際相手や友人も参加でき、居住地は問わない。参加費1,000円。予約不要。

なお、予約制の個別相談も実施している。お問い合わせは、神戸ダルクビレッジ(TEL 078-224-4244)まで。

淡路市北部の美しい棚田が広がる生田地域では、地域活性化に向けて「そばの栽培」が盛んだよ。年間1万人も訪れる人気のそば屋「そばカフェ生田村」は、廃園になった保育所を活用して平成23年4月にオープン。高齢でも生き生きと働き、都会から移住する人も増えているよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする
取り組みを紹介します。

地元産そばで地域を活性化

生田地域は人口約420人(約140世帯)で高齢化率は約40%に上る。住民の高齢化と若者の減少に加え、農業離れも進むなど、地域活性化や農地保全が課題となっていたところ、他の地域にはない独自の取り組みとして「そば栽培」を開始。真っ白な花が一面に広がる「第一回そば花まつり」には予想を超える700人以上の来場者があり、これを契機に自治会や農林関係者が参画する生田地域活性化協議会が結成された。

同協議会事務局長の田村伊久男さんは「淡路島初の地元産そばの風味が良いと好評で、そば屋の店が村の活性化や雇用創出につながると思った」と「そばカフェ生田村」開店の経緯を振り返る。

新たな交流が地域を元気にする

そばの栽培は、住民総出で行う地域の共同作業。住民は、草取り、種まき、刈取り、加工などさまざまな場面で交流し、つながりを深めている。そして、地元農家が育てた

“そば”を活かして地域を活性化 「そばカフェ生田村」

そばの実を、そばカフェ生田村が買い取るなど、村全体で地産地消に取り組む。

お店は、土日祝日の営業で、来店客は年間1万人におよぶ。都会からのリピーターも多い。平均年齢65歳のスタッフ15名は、お客さんとの会話を楽しみながら元気に働くことが生きがいになっている。

「都会から来たお客さんが、私たちの気付かない村の良いところを教えてください」と田村さん。

今では「そば花まつり」は数千人規模の大きなイベントとなり、「夏休み親子そば打ち体験」も盛況だ。自然豊かな村の風景と住民の人柄に惹かれて都会から移住する人も



お客さんの前で打つおいしいそばが自慢!
地元の食材でもてなす



秋には住民総出で、そばの刈取り作業!

取材を終えて

そばカフェが開店して7年目を迎えた生田地域。カフェ 2号店を1ターン移住の夫妻が経営するなど、ヒトとモノの両面で村に活気が戻ってきたそう。住民みんなが関わる村づくりは「集落が家族になる」ような取り組みだと感じました。

そばカフェ生田村(営業日は土・日・祝日)
淡路市生田畑152
TEL 0799-70-1478

現れるなど、地域の活性化は一層の広がりを見せている。

また、そばカフェ生田村では、住民に開かれた拠点として平日の水曜日に「生田の日」を設定。喫茶やそば打ち教室の開催など、住民同士がつながる貴重な場となっている。

会場	開催日	会場
姫路	平成29年8月8日(火) 13:00~16:00	姫路商工会議所2階大ホール
明石	平成29年8月29日(火) 13:00~16:00 平成29年8月30日(水) 9:30~17:00	あかし市民広場
尼崎	平成29年9月30日(土) 13:00~16:00	尼崎市中小企業センター1階ホール

※最新情報は兵庫県福祉人材センターのホームページ
(<http://www.hyogo-wel.or.jp/work/>) と Facebook でチェック!

福祉の就職説明会を 姫路・明石・尼崎で開催!

兵庫県福祉人材センターでは、「あなたの地域でさがす! 福祉のお仕事」と題し、福祉の就職説明会を県内3会場で開催する。福祉の仕事に興味・関心がある方は誰でも参加可能。法人・事業所の採用担当者と面談でき、職場の説明や求人内容を聞くことができる。お気軽にご参加ください。

県内社協が直面する 経営課題を協議

6月9日、県社協では今年度第1回目の県内社協事務局長会議を開催した。当日は、「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の動きなど、地域福祉の新たな政策が進められようとしている中で、県内市町村社協が直面する経営課題についてのグループ協議を行った(別表参照)。激動する情勢の中で、社協は「地域福祉のコーディネーター役」としてどのような役割を担っていくべきか。今年度、県社協では今回協議された内容を踏まえ、「地域福祉政策

別表 事務局長会議で出された意見

- ・地域福祉計画と地域福祉推進計画の一体的な策定や進行管理が課題である。
- ・地域福祉推進計画は策定するだけでなく、「何のための」計画なのかを組織の末端まで浸透させていくことが大切である。
- ・新しい総合事業の「協議体」づくりは、既存の組織を生かしていくべきである。
- ・漏れの無い相談体制構築に向けて、社協内の総合化の仕組みが必要である。
- ・介護報酬の引き下げ等により介護サービス事業収益が低下している。また、人材確保も大きな課題となっている。
- ・理事会・評議員会等を活性化して、協議体としての機能を高めていく必要がある。
- ・次の世代を担う職員の育成が課題となっている。



研究会等の場を通じて、これらの課題への対応方策などを検討していく予定である。

ご存知ですか? 離職した 介護福祉士等の届け出制度

介護福祉士等の資格を持つ人が、離職時に福祉人材センターへ届け出を行う制度がスタートした。介護福祉士の他、介護職員初任者研修や実務者研修、訪問介護員養成研修1・2級課程修了者などの届け出も受け付ける。届け出を行った人には、求人情報や各種イベントの案内などをタイムリーに届け、再就職に向けた動きを後押しする。届け出の手続きは、WEBサイト「福祉のお仕事」から必要事項を登録して完了する。



コープごつべとの協働により 地域連携事例集を作成

県社協では、生活協同組合コープごつべと神戸市社協との三者により、平成12年度に「市民福祉社会への協働憲章」を締結し、災害時のボランティア活動への支援など、相互の連携による「市民福祉社会づくり」の推進に向けた取り組みを進めてきた。このたび、同憲章に基づく取り組みの一環として、生協や市町村協と地域のさまざまな団体との連携・協働の取り組みを紹介する「地域連携事例集」をまとめた。『地域連携事例集』を作成した。同事例集では、複雑化・多様化する生活・福祉課題の解決に向けて、支え合い活動やサロン等の拠点づくりなど、現在進行形の県内12カ所の事例を掲載。取り組みの



社会福祉法人の経営上の 困り事をサポート!

県社協では、社会福祉事業経営相談室を設置し、法人組織運営、会計・税務、リスクマネジメント、労務管理といった、社会福祉法人の経営上の相談・質問を受け付けている。経営相談室の開設日、時間は左記のとおり。お電話でご相談ください。

社会福祉事業経営相談室の開設日・時間等

相談受付	<p>相談日:月・水・金曜日 時間:10:00~17:00</p> <p>*相談員が対応。 *原則月1回(第1水曜日) 公認会計士が、会計・税務に関する専門的な相談・質問に対応します。</p>
電話番号	078-271-1230

「平成29年度 地域福祉研修」受講者募集!

「地域」との協働を進めたい全ての福祉専門職向けの研修です。地域へのアプローチの基本となる知識とスキルを身につけます。ぜひ、ご参加ください。

- 開催期日 ※4日間にわたって開催
- 1日目 8月1日(火) 10:20~16:30 2日目 8月2日(水) 10:20~16:30
3日目 9月22日(金) 10:20~16:30 4日目 10月27日(金) 10:20~16:30
- 講師 藤井博志氏(関西学院大学教授)、所めぐみ氏(関西大学教授)他
- 定員 50名(先着順) 参加費 16,400円(4回分、テキスト代含む)
- 締め切り 7月12日(水) 問い合わせ 兵庫県社会福祉研修所 研修第1部 TEL 078-367-3001

県内での取り組みの普及に向けてご活用いただきたい。
*事例集のデータは、県社協ホームページに掲載予定。

「平成29年度 管理職研修」受講者募集!

社会福祉施設・事業所の管理職が福祉経営の感覚を養い、事業・組織のマネジメント手法を学ぶ研修です。各地で活躍される講師陣を迎えた、実践的な研修です。ぜひ、ご参加ください。

- 開催期日 ※3日間にわたって開催
- 1日目 9月27日(水) 10:20~16:15 2日目 10月13日(金) 10:20~16:15
3日目 11月1日(水) 10:20~16:15
- 講師 戸枝 陽基氏(社会福祉法人むそう理事長)他
- 定員 40名(先着順) 参加費 24,300円(3回分、テキスト代含む)
- 締め切り 8月28日(月) 問い合わせ 兵庫県社会福祉研修所 研修第1部 TEL 078-367-3001

昨年度を受講者の声

「これまで受けた研修で一番勉強になりました。業務に生かしたいと思います」

「これだけ素晴らしい研修なので、来年度も受けたいくらいです」

「事業の立ち上げや計画、経営に必要な知識を学びました」

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

一般財団法人長谷川福祉会
平成29年度助成金

障害者を対象とした社会福祉活動のための施設の建設・修理・改造および備品等の購入や福祉団体・ボランティアグループ等が行う社会福祉活動に対して助成します。

対象 障害者を対象とした施設・団体(法人格の有無は不問)

助成額 ①施設の建設・修理・改造:1件上限100万円、備品の購入:1件上限50万円②社会福祉活動事業:1件上限50万円、福祉活動用資材:1件上限50万円

締切り 平成29年7月25日(火)必着

④ ⑤ ①兵庫県社会福祉協議会福祉事業部 TEL 078-242-4635
②兵庫県社会福祉協議会地域福祉部 TEL 078-242-4634

URL <http://www.hasegawafukushikai.jp/>

社会福祉法人清水基金
平成29年度助成事業

障害児・者の施設を運営し、社会的自立支援・地域移行を図る社会福祉法人に対して助成します。

対象 障害児・者福祉の増進を目的に運営している社会福祉法人の事業

助成額 原則1件50万円以上1,000万円以内(総額3億6,000万円を予定。助成件数100件程度) ※原則申し込み法人が事業費の30%以上を負担

締切り 平成29年7月31日(月)必着

④ ⑤ 社会福祉法人清水基金
TEL 03-3273-3503

URL <https://www.shimizu-kikin.or.jp/>

一般財団法人松翁会
平成29年度社会福祉助成事業

社会福祉に関する民間事業に助成します。

対象 原則法人・団体であり(法人格の有無は不問)、障害者の福祉向上案件、および難病案件、虐待防止案件であることなどの条件を満たすこと

助成額 1件10万円以上60万円以内(総額700万円以内)

締切り 平成29年7月31日(月)必着

④ ⑤ 一般財団法人松翁会
TEL 03-3201-3225

URL http://shouohkai.or.jp/zaidanhojin_shououkai/

公益財団法人木口福祉財団
平成29年度被災地復興助成

東日本大震災や熊本地震などの自然災害で被災した障害者を支援する活動に助成します。

対象 福祉活動やボランティア活動に取り組む日本国内の団体・グループ(法人格の有無は不問) ※個人での申し込み不可

助成額 活動助成:1件上限50万円、施設整備助成:1件上限300万円(総額1,000万円を予定)

締切り 平成29年8月3日(木)

④ ⑤ 公益財団法人木口福祉財団
TEL 0797-21-5150

URL <http://kiguchi.or.jp/>

社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

夢に向かって進学する人を応援します。

対象 児童養護施設や里親家庭で生活し、平成30年4月に大学、短期大学、専門学校への進学を希望している高校3年生(高卒認定合格見込み者を含む) ※年間60万円以上の返済不要の奨学金を他団体などから支給される人、後期入学をする人は対象外

助成額 入学金(実費)、卒業するまで年間60万円を支給(上限240万円。ただし6年制大学は上限360万円)

締切り 平成29年8月10日(木)消印有効

④ ⑤ 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
TEL 03-5540-7446

URL <http://www.asahi-welfare.or.jp/>

募集

第19回人間サイズのまちづくり賞

まちなみや建築物、ユニバーサルデザインのみちづくり、花と緑のみちづくり、もしくはまちづくり活動を行っている団体または個人を顕彰します。(自薦・他薦不問)

募集部門 まちなみ建築部門、ユニバーサルデザイン部門、花緑部門、まちづくり活動部門

締切り 平成29年7月14日(金)消印有効

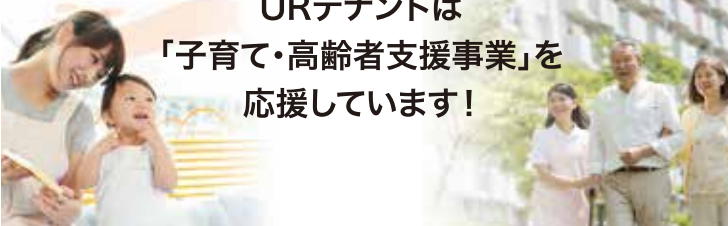
④ ⑤ 兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課都市政策班
TEL 078-341-7711

URL https://web.pref.hyogo.lg.jp/wd20/wd20_000000008.html

行事予定

- 7月 3日 保育リーダーゼミナール(全4日)
◆県社会福祉研修所
- 4日 社協ワーカー実践研究会議(第1回)◆県福祉センター
- 5日 第1回権利擁護部会
◆県福祉センター
- 6日 第1回地域福祉推進部会
◆県福祉センター
- 7日 第1回福祉事業推進部会
◆県福祉センター
OJTリーダー養成研修(基礎編)
◆県社会福祉研修所
- 18日 福祉人材の確保・育成セミナー
◆県民会館
- 20日 経営協7月例会「改正社会福祉法」フォローアップセミナー
◆神戸メリケンパークオリエンタルホテル
- 21日 医療扶助・介護扶助事務担当者研修◆県社会福祉研修所
- 24日 社会福祉援助基礎研修 Aコース(全2日)◆県社会福祉研修所
災害ボランティアコーディネーター養成研修(基礎)
◆クリスタルホール
- 25日 第2回社会福祉政策委員会
◆県福祉センター
社会福祉情勢セミナー【第1回】
◆県福祉センター
- 26日 相談面接技術研修 中級Aコース(全2日)◆関西学院大学
- 27日 前頭側頭型認知症家族交流会
◆県福祉センター
- 28日 近畿ブロック府県社協生活福祉資金研究協議会
◆県福祉センター
- 29日 子育て支援員研修基本研修 Aコース(全2日)
◆県学校厚生会館
- 8月 1日 地域福祉研修(全4日)
◆県社会福祉研修所
- 4日 福祉のしごと職場見学バスツアー(北播磨・阪神コース)
◆高岡育児園・ゆうかり保育園

URテナントは
「子育て・高齢者支援事業」を
応援しています!



子育て支援事業者への賃貸料優遇制度
賃貸料最大50%OFF

高齢者支援事業者への賃貸料優遇制度
賃貸料最大20%OFF

※申込後の審査により、賃貸料が割引になる事業かどうか判断させていただきます。
※既存店舗との競合業種は、団地によっては受付できない場合があります。

メリットいっぱいUR

- merit-2 権利金・礼金・手数料不要
初期費用が安い!
- merit-3 開店までの準備期間も安心
工事前の賃貸料無料
- merit-4 面倒な手続きいらず
保証人不要!
- merit-5 大型団地内だから
潜在顧客が豊富
- merit-6 最初の6ヶ月間
賃貸料無料に限りです。



街に、ルネッサンス
UR都市機構

独立行政法人 都市再生機構
西日本支社 住宅経営部 経営チーム
〒536-8550 大阪府城東区森之宮1-6-85
TEL.06-6969-9044

URテナント 関西 検索